

カウントアップ連句 とり
あえず200まで

青豆

1

こころみに 独り連句の 数え上げ

2

ふるさと思い蝉時雨聴く

3

大学の短き木陰を散歩して

4

4時を過ぎれば涼しさぞ増す

5

5限目を出るか出ざるか迷うころ

6

ろくに話を聞かぬ気なれば

7

七割はなすびの花もむだになり

8

花粉を運ぶ蜂の少なし

9

草むらは建物道路が喰い荒らし

10

造成途中のモデル住宅

11

いい場所はマークしている業者らの

12

住人だましのひどい手口よ

13

住民票印鑑ともに偽造して

14

住所変更済ましてしまう

15

就職の以後のことを思うなら

16

若いうちだけいろんなことして

17

田舎ではこの身に刺激が少ないと

18

嫌気がさすので東京に出る

19

幾日もこの部屋にいて勉学は

20

洗濯物の臭うもはげしく

21

兄ちゃんの不精もここに極まれり

22

二重に鍵つく部屋からも出ず

23

紙くずで足の踏み場もなくなって

24

西日の差し込む窓をながむる

25

2号棟給湯室の友人と

26

二浪した身の話などして

27

蜷川の演劇論を交えつつ

28

煮奴豆腐で酒酌み交わしつ

29

肉を買うお金はなくて今回は

30

葱しか入らぬ味噌煮込みうどん

31

最近では食材買うが面倒で

32

サニーレタスを漬物にする

33

暑気よけの夏場の笹茶のお茶請けに

34

指してる将棋の盤はすすまず

35

お互いに雑魚とののしる腕前は

36

四国三郎河川敷にて

37

今朝までは水面の下の沈下橋

38

いま月影のいとさやかなり

39

車窓より臥龍桜をながむれば

40

我が家は広しと四十雀飛ぶ

41

本泉寺椎の巨木に風そよぐ

42

世に移ろわぬ奈良の都の

43

いまもなお夜店の人の訛りあり

44

もう停車場へと押し寄せる波

45

仕事場が家から遠くなっていく

46

新聞で読むドーナツ化かな

47

品川の先に夜住む人は無し

48

四谷の通りに猫たむろする

49

よくもまあ集まるものだと思うほど

50

類と呼べる児、例のお祭り

51

聞く語彙の偏る仲間多くいて

52

いつになく話す 我が友

53

ゴミ拾い 本を並べて 床拭いて

54

腰を痛めて その背かがめて

55

院生室午後のうららに身を潜む

56

どこの隙間でごろ寝するべき

57

春風に粉をふいたるゆかつくえ

58

小屋のかたすみひとり佇む

59

極楽のさまなる外の天気にも

60

一人蒸れ居る春の寝床や

61

無為という言葉ス様にあるべしと

62

記録に残る清の政治や

63

無残にも崩壊したとは言いながら

64

虫は住める哉何も変わらず

65

六つ子のも五分のもありて魂の

66

睦むちぎりの僕と君かな

67

むなしさはただ子を生せぬことのみと

68

むやみにさかるも人の性かな

69

椋鳥やとびてかえりて巢にこもり

70

なれたる我が家をともしたるや

71

内情は知れぬがうちに君をつれ

72

質に置いたはいつのことぞや

73

聴くもまた語るも涙の思い出を

74

名無しで書き込む過疎地のブログ

75

なごみとはかようなことを指すらしい

76

大きな炉ばたでやきつ語りつ

77

そぐわぬは魚子のグラス赤い酒

78

納屋の片隅の閑伽棚の上

79

亡くせしと聞く人の影ただよいて

80

晴れたと言ひし顔の裏側

81

はいこれで貴方にかかる疑いは

82

藪の中ですあと数年は

83

人生の闇から逃れる術もなく

84

香具師としてゆく神農道かな

85

屋号などいらぬ荷物と捨て去って

86

立つが信条のハムで大根

87

舞台ではハナが一番と嘯いて

88

きょうの清水のやや散るながめ

89

白雲の隙を光が差し込みて

90

暮れというとき心しめして

91

悔いのない生き方せよと無理をいい

92

国ほろぶとも我は関せず

93

夏草や兵どもや夢野跡

94

旧市街地の知られざる場所

95

救護者は己も迷いておりにけり

96

苦勞といわるが世の薬とは

97

教訓はくなで終わると心得が

98

区役所ロビーで日がな一生

99

汲々と事処理するはずもなし

100

天の桃食い百やそこいらは

101

とおい日の記憶をたどる猿の身で

102

いま人間と言われながらも

103

父さんのかつての言葉懐かしむ

104

入れよその骨おもいとともに

105

日追うごと魂こもる念こもる

106

意を炉にくべて火となさんかな

107

薪もなく炭も尽きたに火をなさん

108

晦日のドンドとすべく飾りを入れや

109

デパートの広い屋上夕焼けが

110

人をまばらに染めて落ちゆく

111

快樂の墮落の際のいい日かな

112

いやこれくらい非にはならぬと

113

いい身分妻金持ちたる色男

114

いい死にざまは晒せぬものよと

115

顔身口からだのすべてでいい子なり

116

緋色の産着肌をくるみし

117

最上段左におわす児ひいなさま

118

いやこのこのここだかなしき

119

いい句とはいえぬながらもここまでを

120

いづれははてるはてるといいな

121

頃はいつ今がいつとも知れぬ身は

122

井筒に欠けしたけの頃かな

123

君の事いつ見しとてや数えけん

124

わきて流るるいにしえの河

125

宇宙母がこの乳流すはいつごろぞ

1 2 6

大銀河系風呂場にあらわる

1 2 7

本日はおしまいになって栓抜けば

1 2 8

飲む食うとまらず胃に火傷浮く

1 2 9

検診で病づくしとなろうとも

1 3 0

それでおいらが諫まるものか

1 3 1

たのまれでする体裁のお小言の

1 3 2

警察沙汰に親も来ぬとは

1 3 3

教護院悲しい願い笹飾り

1 3 4

意味深ながら涙ながるる

1 3 5

いざことが解ってみればなおのこと

1 3 6

意味論なんて無意味ということ

1 3 7

口で言う前に心で愛さなきゃ

1 3 8

今の関係は悲惨やないか

1 3 9

先輩が仕事の秘策を教えたる

1 4 0

挨拶名刺礼状届け出

1 4 1

心無くI.C.は仕事をこなしけり

1 4 2

異質と思えば人間からなり

143

機械よ皆われより偉く見ゆる日よ

144

イシシと笑う儲けし者等

145

俺たちは汚い仕事はしませんと

146

大空いっぱい白い布布

147

梅雨の間の雲の無いよなあるような

148

一部山沿い降るとの予報や

149

山越える意欲を削がれる形なり

150

はいこれく切りで前句がお粗末

151

病弱で連歌サイトが憩いの場

152

さい期に遺したログの消さるる

153

結局ははかないごみと思われぬ

154

いごよろしくと手紙にはある

155

ひと心地ついたところに届きたる

156

荷物崩壊ごろごろと散る

157

トラックは鋭いコーナー曲がるとき

158

苺やメロンの悲鳴聴きたり

159

ソーダ水ゴクゴクと喉で音たてて

160

テレビ画面はイチローを追う

161

アメリカの広いスタジアムにズームかけ

162

この大陸に燃え上がる灯よ

163

金メダルその色見れば思い出す

164

ヒーローより与えられし夢

165

色五つそろえば合体可能なり

166

ヒロムの夢の宇宙ステーション

167

差別無くいろんな人が住んでいる

168

深い牢屋のそのまた奥に

169

読み解けばシャイロックの心見え

170

シェイクスピアは聖なれ幸あれ

171

後の世も彼ほどの者はいないだろ

172

腕に牛を二頭ぶら下げ

173

真夜中の暗い波間の牛飼いの

174

いなし声する滔々とうと

175

秋の田にイナゴの群れ追う農夫らの

176

わずかに都会な路地を帰り行く

177

ニュース見る人質七割しか逃げられず

178

イナバ物置にものせきれぬ死者

179

動物が皆いなくなる動物園

180

戦時政府は全てを迫いやれと

181

学童の位牌を胸に抱く母

182

いやに目に付く門のマスコミ

183

幸運にいやみを言うではないけれど

184

癒し系というものが流行らしい

185

お茶沸かし冷ご飯盛り梅茶漬け

186

うまいやろうと妻も酔いざめ

187

せっかくのムード壊した嫌なやつ

188

一群の人や山駆けて過ぐ

189

一泊と言うたが未だ帰り来ず

190

日暮れの卓の寂しきことよ

191

相方が茶碗食いかけ見つめてる

192

引くに引けない賭けのさなかに

193

一組のカップルここに成立す

194

いますぐ行くよ そう言ったとき

195

ありがたい救護の手にもうらみあり

196

白き巨塔の度々黒きに

197

彼処には行くなと言うても連れてかれ

198

行くやこの街悪の道かな

199

身を低く偽善者の顔したるまま

200

連れはなくとも世の情けかな